



TITLE:

京大広報 号外

AUTHOR(S):

京都大学広報センター

CITATION:

京都大学広報センター. 京大広報 号外. 京大広報 2008, 0804n: 2611-2622

ISSUE DATE:

2008-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196454>

RIGHT:



京大広報

号外

2008. 4

目次

〈入学式〉

学部入学式における総長のことば……………	2612
大学院入学式における総長のことば……………	2615

〈大学の動き〉

平成20年度学部入学式……………	2618
平成20年度大学院入学式……………	2619
平成20年度入学者選抜学力試験の結果……………	2621
名誉教授称号授与式……………	2622



平成20年度入学式



京都大学広報センター

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

入学式

学部入学式における総長のことば

平成20年4月7日

総長 尾 池 和 夫

京都大学に入学された3,018名の皆さん、入学まことにおめでとうございます。ご来賓の沢田元総長、西島元総長、井村元総長、長尾前総長、名誉教授、ご列席の副学長、各学部長、部局長とともに、入学を心からお祝い申し上げます。

この日まで、皆さんはそれぞれに、ほぼ18年以上の人生を経験して来たことと思います。たどってきた道を今、それぞれに振り返って見ておられるかもしれません。あるいは、これから進んでいく道に思いを馳せている方もおられることでしょう。ご家族の方々も、今までの学習を支えて来られたことを、あらためて思い起こしておられることと思います。新入生の父母の方々には、独立して自分の道を歩き始めたお子さまを、これからは距離を置いて見守ってあげていただくようお願いしたいと思います。

入学式の季節は、日本では、さまざまな植物の芽吹き季節です。京都大学の樟は多くの紅い古い葉を落とし、若葉がそれに入れ替わっています。新年度には大学の中にも学問の新しい領域が芽を出します。例えば今年、京都大学では、春を待たずにいち早く、iPS細胞研究センターという新しい組織が生まれました。4月1日には野生動物研究センターと文化財総合研究センターが誕生しました。これらの新しい芽も、皆さんとともに急速に成長していきます。今年京都大学に入学された皆さんは、これらの組織の成長も見えて、数年後のそれらの成長と自分の成長とを重ねてみて、卒業式を迎えてくださるようお願いします。

京都大学は日本でもっとも大学らしい大学と、よく言われます。京都大学の中には、さまざまな分野で世界一と言える研究の拠点がたくさんあり、世界一と言われている多くの研究者たちがいます。世界



一の研究者が皆さんと同じキャンパスを歩き、同じ食堂で昼食をとっています。その研究者の頭脳にある知の蓄積を、積極的に吸収してください。自分のまわりに豊富に蓄積されている知を、自らの学習でしっかりととらえて、身につけて卒業してくださるよう期待しています。

皆さんが学生となったこの京都大学は、1897年に創立され、今年創立111周年を迎えます。2007年には日本で初めてと二番目にノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士、朝永振一郎博士の生誕百年を祝いました。今年は例えば、偉大な指揮者、朝比奈隆さんの生誕百年です。

そのような多くの人材を、さまざまな分野で生み出してきた京都大学の入学式の主役として、今ここに皆さんは参列しておられます。ここにおられる新入生の皆さんは、これから世界の人びとに貢献できる十分に長い時間を持っています。また、十分な可能性を秘めています。今日私が話すいくつかのことは、これから学問の道に入っていく皆さんに、私がぜひ念頭に置いてほしいと望むことです。

まず、京都大学のある京都が、世界遺産の町であるということを認識して、学習の合間に京都という古都をよく見てほしいと思います。世界からたくさんの人びとが京都を訪れます。今年は『源氏物語』が生まれて1000年とされています。鎌倉後期の写本とみられる「末摘花」の写本が、今、角屋に展示されていて、実物を見ることができます。皆さんも『源

氏物語』を読んで、いろいろの国に紹介する仕事をしたいと思っています。また、川端康成の『古都』を読んで、京都の町を歩いてほしいと思います。

京都盆地は第四紀後期の活断層運動で形成された盆地で、発達した厚い堆積層の中には豊富な地下水を含んでおり、世界的にも稀なこの良質の地下水が京都の文化を生み出しました。それを実感していただくために、例えば、裏千家今日庵と京都大学の連携で、皆さんは、学生証を見せるだけで、茶道資料館に無料で入館でき、特別展や通常展を観覧し、図録を二割引で購入し、さらに立礼席で呈茶のサービスを受けることができます。その他にも学生証で国立近代美術館や奈良、京都の国立博物館に無料で入場できるよう提携しています。このような制度も大いに活用して、京都大学の学生としての特典を使っていたきたいと思っています。

京都大学は、基本理念の中に、「自由の学風」ということば、「多元的な課題の解決」ということば、そして「地球社会の調和ある共存」ということばを使っています。

まず、自由の学風ということです。学問を大いに楽しむことが大切です。楽しむためには学習が必要です。偉大な業績をあげている学者と話しをするためには、そのことばが理解できなければなりません。自らの疑問を整理して専門用語で話しをしなければなりません。そのためには京都大学の豊富な知の蓄積を十分に活用して学習をしてほしいと思います。多くの古典を読むことも必要です。例えば、高木貞治の『解析概論』やチャールズ・ダーウィンの『種の起源』を読んで、そこから学問の道を順に自分でたどってほしいと思います。

自由の学風の中での自学自習を薦めます。学生の皆さんが学習するための環境を、常に整備しながら良好に保つことが京都大学の役目です。学生の皆さんが自らの意志で学習したいと思ったとき、それができる大学でなければならないと私たちは思っています。そのようなキャンパスを作っていくためには、学生の皆さんの声を役員に届けていただくことも重要です。総長宛にメールを送れるようにしてありま

す。気づいたことを教えてほしいと思います。

次に、多元的な課題の解決ということです。私たちは多様性の世界にいます。さまざまな面からその問題を考えて行かなければなりません。今日は人権を大切にすることについて話しておきたいと思っています。どのような社会にも、また大学の中にも、差別があってはならないのです。人権は、個人が無条件に持っている社会生活の上での権利で、憲法や法で守られています。京都大学の基本理念には、「環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える」とあります。新入生の皆さんに配布した資料をよく読んで、これから大学で学習するための場所を、まず差別のない社会にしていこう、一人ひとりの人権を尊重して行動できるよう、理解を深めていただきたいと思います。

また、男女共同参画社会の実現のために、とくに女子学生の支援も重要と考えています。そのためのアイデアもよせていただきたいと思います。例えば、斎藤美奈子『物は言いよう』という本があります。皆さんも読んでみて、ハラスメントのことを考えるきっかけを見つけてほしいと思います。

女性の研究者がもっとたくさん教育と研究に参加してほしいのです。例えば、霊長類学では社会行動を研究するのに、猿などの野生動物の社会行動に雌雄の性差があることがわかってきて、そのような研究のための情報が集まるためには、女性の視点が重要な役割を果たす場合もあるかもしれません。教育と研究の現場である京都大学で、一般的に男女差別のない教職員、学生の社会が構成されることが必要で、そのためには皆さんの知恵も借りながら、まだまだ解決して行かなければならない課題が多いと思います。

次に、地球の将来のことです。伊谷純一郎さんの『ゴリラとピグミーの森』を読んでみてほしいと思います。先日、屋久島の海岸に沿って一周してきました。たくさんのヤクザルとヤクシカを間近に見てきました。京都大学の野生動物研究センターは、野生動物の研究をしますが、まずヒト科4属のうちのヒト以外を、主な研究対象にすることになるでしょう。

これは、まだ若い学問分野で、例えば、松沢哲郎先生も、京都大学名誉博士のジェーン・グドールさんでさえ、一人のチンパンジーの生涯をまだ観察したことがありません。

また、地球社会の調和ある共存のためには、自然環境を考えることも大切です。エネルギーのことも考えなければなりません。私たち人類に関係するエネルギーには、太陽起源のエネルギーと地球起源のエネルギーがあります。太陽の光、それを蓄える植物、風力などのエネルギーが太陽起源であり、原子力などは地球起源のエネルギーです。日本列島にはこれらのエネルギーが豊富にあります。中緯度で太陽は一年中光を注ぎます。地球内部から消費されるエネルギーには地震や噴火や地熱があり、人が掘り出すエネルギー資源があります。とくに地震や噴火のエネルギーは莫大な量です。これらをすべて日本列島は豊富に持っています。そのようなエネルギーの中で、人類は制御する技術を身につけて一部を利用しています。例えば原子力発電がその例です。

しかし地震や噴火のエネルギーはまだ制御することができません。地球起源のエネルギーが地震や噴火の場合には、災害を起こすことだけに消費されています。日本列島は世界の地震のエネルギーのほぼ1割を持っています。それは日本列島がプレート収束域の変動帯にできた島だからです。噴火も同じように日本列島に多くあり、現在まだ制御と利用の困難なエネルギーです。これらの課題も、これから皆さんに考えてほしいと思います。

安全と安心がこれからの重要な課題です。自然災害を軽減するためには、自然の仕組みをよく知ることが大切です。知ることによって制御する技術の開発も可能になります。私は先日、柏崎刈羽原子力発電所の4号炉を見てきました。中越沖地震の震源断層面が至近距離に発生し、激しい強震動を受けた発電所だからです。実際に見て驚いたことは、あれだけ震源断層運動に近い距離で強い地震動を経験しながら、複雑な原子炉の仕組みが壊れていないということでした。日本の工学が生み出した技術の素晴らしさを見ることができた思いでした。日本と同じよ

うな変動帯にある他の国でも原子炉が使われています。私は、このような優れた日本の技術をさらに発展させつつ、その知の蓄積を世界の人びとに伝え、国際的に安全な社会の実現を進めなければと思いました。皆さんもこの問題を、周りの人たちと議論して考えてみてほしいと思います。

皆さんの中には工学部に入って、技術の進展に貢献しようという方も多いと思います。昔あったような、企業の利潤追求のみを意識したような新製品の開発という概念ではなく、人類の安全と安心を意識した、人類の福祉に貢献する技術の発展を支えてほしいと思います。

地震学も、地震工学も、また霊長類学も、日本列島の特徴をもとにして、日本で生まれた学問の分野です。地球社会全体のことを考えるために、これらの学問を大いに進めていただきたいと思います。

自然環境のことを考えるのは、世界の課題です。京都大学は、日本全体の二酸化炭素排出量の約1万分の1を排出しています。これは近い将来、必ず減らさなければなりません。皆さんもそのための知恵を提供し、自ら行動してほしいと思います。杉浦日向子の『一日江戸人』を読んで、江戸の暮らしを見習うことも役立つかもしれません。百万を超える人口と都市の規模から考えて、また健康的な生活内容から考えて、地球社会の調和ある共存のために、江戸の暮らしは十分学ぶのに値する暮らし方であると思います。

また、自然環境を大きく破壊する人類の行いの中に戦争という行為があるのを忘れてはなりません。平和を大切にしなければなりません。戦争は人の社会を含めて、地球社会を大規模に破壊する行為です。自然環境にも大きな影響を長期にわたって残します。

霊長類学会の初代会長を務めた河合雅雄さんが霊長類学を始めたのは、戦争体験から、仲間を殺し合うために兵器まで作った人間とは何かという疑問に答えるために、猿を研究することによって人間の本性を考えたいと思ったからだと言われました。

京都大学の111年の歴史の続きを、今日入学式を

迎えた皆さんがしっかりと書き続けてほしいと思います。そのために、たくさんの教職員が皆さんの相手をします。また、京都大学生協同組合や京都大学教育研究支援財団をはじめとするいくつかの組織が、皆さんの学園生活を支援します。生協はその活動への皆さんの参加を歓迎します。また、紅萌祭で皆さんの入学を先輩たちが歓迎したように、多くの課外活動のグループが、皆さんの参加を待っています。スポーツに、文化活動に、あるいはボランティア活動に積極的に参加して、友人を作り、先輩に学

び、知識と経験を蓄積しつつ、友情を育んでほしいと思います。まちがいなく、それは、皆さんの生涯を支える大きな財産になります。皆さんは、無限の可能性を持っています。皆さんの活躍を私も楽しみにしています。こころと身体を健康を大切に、学園生活を思い切り楽しんでくださることを期待しつつ、私のお祝いのことばを結びます。

京都大学への入学、まことにおめでとうござい
ます。

大学院入学式における総長のことば

平成20年 4 月 7 日

総長 尾 池 和 夫

本日、京都大学大学院に入学した修士課程2,210名、専門職学位課程368名、博士(後期)課程915名の皆さん、入学おめでとうございます。ご来賓の沢田元総長、長尾前総長、名誉教授、ご列席の副学長、研究科長、学舎長、教育部長、研究所長とともに、皆さんの入学を心からお慶び申し上げます。

皆さんは学問の道をさらに究めるために、さまざまな学問分野へ、さらに一步を踏み出す地点に立っておられます。それぞれの分野で、学習と研究を進め、世界の舞台で活躍される日が近いという地点に立って、未来を見つめておられることと思います。新たな飛躍のためにも、くれぐれも心身の健康に留意して、京都大学の豊かな知の蓄積を活かしながら、楽しく学問を続けてほしいと思います。京都大学は、皆さんが学習と研究を力一杯進めていけるように、大学の制度を整え、キャンパスの設備の整備に努め



ます。

京都大学は、基本理念の中に、「自由の学風」ということば、「多元的な課題の解決」ということば、そして「地球社会の調和ある共存」ということばを使っています。これらは、21世紀の世界の基本的な考え方に結びつくことばであると思います。

大学の役割の根本は、教育と研究と社会貢献です。京都大学は、世界的に卓越した知の創造と、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめることを基本理念としています。知の創造が研究ということの基本であり、知の継承と創造的精神の涵養が教育の基本であります。そしてそれらの経験を活かして他大学との連携を進め、産学連携を進め、知の蓄積を

世の中に役立つ形で活かしていくのが社会貢献であります。地球を思うところを持っていて、科学技術に精通していて、それらをマネジメントに活かす人材を育てることも、これからの大学教育の重要な役割の一つです。

21世紀は知の世紀です。知の創造と発信、知の移転と流通こそ、世界の人類に貢献することであり、教育のグローバル化が進展する中で、大学の役割が知の創造と蓄積と社会への還元にあることを認識することが重要です。

知の創造は、私利私欲を持たない研究者によって力強く進められることが重要です。研究者の世界は競争社会とよく言われます。しかし、競争しても、スポーツのように勝ち負けをいう競争ではありません。もちろん科学や技術の研究成果は、先に発表した人の成果とされますが、そこに至る競争は世界の研究者が参加して行われ、情報が交換される中での、実に楽しい競争であります。そして最初に成功した研究者には最大限の賛辞が送られ、多くの研究者によって追試が行われて、その成功が確認されます。追試の中からまた新しい発見があります。このような基本を認識していないと、ときに実験データの改竄が行われたりする悲劇が発生します。

人類がまだ見たことのない物を見つけたり、まだ誰も知らないことを知るというのは、たいへんに楽しいことで、小さい発見でもこころのおどる経験をします。しかし、科学の発見は、記述した論文が公開されることで成立します。優れた発見は重要な業績ですから、先を争うことになりますが、発見に至る過程が再現性のある形で記述されていて、他の研究者の追試によって結果が認められることが重要です。

追試が行われるということは、他の科学者が発見の価値を認めている証拠です。研究者が自分で記者会見して、それをもとに新聞などが研究成果として紹介しても、世界の科学者によって追試が行われていなければ、専門家に価値が認められていないのです。追試が行われていない論文は、周知の事実であつたり、追試に値しないものであるという判断が出

ているのです。追試をしてもらえるように、いつも世界の研究者たちと交流して、自分の発見を注目してもらおうよう心がけてほしいと思います。京都大学教育研究支援財団は、そのような大学院生のために海外へ出かける旅費を支援します。

再発見ということもあります。有名な例は、メンデルの法則です。1866年のメンデルの論文「植物雑種に関する実験」で示された遺伝の原則が、コレンス(C.Correns)、チエルマク(E.Tshermak)、ド＝フリース(H.de Vries)の3人によって再発見されたのは、1900年のことでした。最初メンデルが発表したときには誰もそれを認めませんでした。3人による再発見によって、メンデルの発見が初めて認められることになりました。ウェゲナーの大陸移動説も再発見の例と言えるかもしれません。

漢の時代に張衡という人がいました。地動儀という器械を発明しました。これは発見ではなく発明というべきことです。人類はさまざまな道具を作りました。自然法則を利用して機械を創り、素材を作りました。発明は富をもたらすことがあり、公開することの代償として、独占的な権利を発明者に与えることが行われます。各国において、発明は特許による保護の対象とされます。しかし、発明の定義は明確ではなく、多くの国で、発明は判例と学説によって定義されます。日本では、発明は「自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度のもの」と法で定義されています。

ときには発見でありかつ発明であるという仕事もたくさんあります。この1年ほどの間に京都大学には多くの発見や発明がありましたが、中でもiPS細胞研究センター長の山中伸弥さんのiPS細胞の樹立は、際だった成果でした。分化した細胞が4つの遺伝子で元に戻るといえるのは驚くべきことで、大発見であり、それを実験で示した方法は偉大なる発明です。

発見や発明は、それだけでは社会貢献になりません。発明や発見はそれを形のあるものにして、誰にでも利用できるものに仕上げ、他の人に伝えることが必要です。それは論文であつたり、設計図であつ

たり、さまざまな形をとりますが、いずれにしても再現性を持っていなければなりません。利用できる形に仕上げるのには、多くの人材が一丸となって協力して仕事を展開しなければなりません。

専門家の間の評価ではなく、研究の成果に関する世の中の分析や見方には、さまざまなものがあり、それらが報道されたときに、その意味をきちんと理解して、間違った影響を受けないことも大切です。自然科学や技術の論文を見る見方と、芸術や文学の論文には、また異なることもあるでしょう。

例えば、今年の1月末に、論文の生産費という記事がメディアに載ったことがあります。東京大学の論文1つあたりのコストが1,845万円で、国立大学でコストが最大であるという表現です。言い換えて、論文の生産性が最低レベルにあると表現されます。この統計では、京都大学は、1,592万円ですから、生産性が東京大学より高いということになりますが、誰一人そのような情報の価値を認める研究者はいないと思います。実際の数字をもとにしていても、おもしろい見出しが付くように仕上げた記事に乗せられてはいけません。

さまざまな注意は必要ですが、細かいことにとらわれずに、皆さんには大いに学問を楽しんでほしいと思います。学習や研究は楽しいものです。実におもしろいというのが、学問を続けていくための大きな原動力です。その、おもしろいという気持ちをいつまでも忘れないように、またさらにおもしろくなるように研究の計画を進めていってほしいと思います。

そして、自分が研究してわかったことを、市民にわかりやすく伝える工夫をしてください。多くの人びとが何を知りたいかを把握した上で研究の計画を立てるということも、場合によっては大学院で研究する場合に意味を持っていることがあります。やがては学位を得て、国際社会に貢献する人材となるということを心がけてほしいと思います。

大学の中を見せるために、京都大学はさまざまな工夫をし、施設設備を用意します。総合博物館もその一つです。総合博物館では、4月9日(水)から8

月31日(日)まで、2008年春季企画展「京の宇宙学－千年の伝統と京大が拓く探査の未来－」があります。1006年5月1日の深夜に、京の空に歴史上もっとも明るい星が輝きました。それが超新星SN1006です。『明月記』に「客星」と記録された星です。2006年に日本のX線衛星「すざく」で、直径50光年の巨大な火の玉に成長した超新星SN1006の姿をとらえることに、京都大学の研究グループが成功しました。企画展の期間中にぜひご覧いただきたいと思います。

最後に、先月の卒業式で申し上げたことですが、京都大学では、学部学生にも大学院の学生にも、すでに多くの支援策を用意して、学費の軽減や生活費の支援を実行しています。これらの情報をわかりやすく整理して提供しますので、上手に利用してください。支援はまだ決して十分とは思っていませんので、今後とも学生支援を充実する努力を継続的に重ねてまいります。とくに博士課程では、世界の将来を担う人材に、安心して研究に従事できるよう、多くの大学院生にさまざまな仕組みで給料を支給しています。しかし、もっとも大きな課題は、大学院を出て博士学位を授与された重要な人材を採用して、力を発揮してもらうための研究者のポストが少ないということです。若い研究者のポストを増やす方策を具体的に検討するよう、京都大学の役員全員が最重点課題として取り組むよう決意しています。

ここに入学式を迎えた方々の中には、大きな能力を持っていて、まだそれを明確に自分で見つけていない人もきっと多いと思います。自分の才能を見つけることも、学問を志す人にとって大きな発見の一つです。もともと教育は、その人の持っている能力を最大限に引き出すものでなければなりません。皆さんにとって、京都大学がそのような場であってほしいと願っています。京都大学の豊かな知財を活用しながら学習し研究して、皆さんが元気に活躍されるようにと願って、私のお祝いのことばといたします。

大学院入学、まことにおめでとうございます。

大学の動き

平成20年度学部入学式

平成20年度学部入学式が、4月7日(月)午前10時から、沢田敏男元総長、西島安則元総長、井村裕夫元総長、長尾真前総長、名誉教授をはじめ副学長、部局長等の出席のもとに、本学総合体育館にて挙行された。

京都大学交響楽団演奏、合唱団による学歌斉唱に続き、「総長のことば」があり、午前10時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。

区 分 学 部	一般入試 (前 期)	一般入試 (後 期)	外国学校 出身者選抜	外国人留学生 特別選抜	編 入 学	再 入 学	転 入 学	学士入学	合 計
総合人間学部	122 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	122 人
文 学 部	224	—	—	1	—	—	—	5	230
教 育 学 部	61	—	—	—	7	—	—	—	68
法 学 部	327	—	8	1	8	—	—	—	344
経 済 学 部	241	—	8	8	8	—	—	—	265
理 学 部	312	—	—	1	—	—	—	—	313
医 学 部	235	23	—	—	2	—	—	—	260
薬 学 部	82	—	—	1	—	—	—	—	83
工 学 部	971	—	—	15	27	1	—	—	1,014
農 学 部	314	—	—	5	—	—	—	—	319
合 計	2,889	23	16	32	52	1	—	5	3,018



平成20年度大学院入学式

平成20年度大学院入学式が、4月7日(月)午後3時から、沢田敏男元総長、長尾真前総長、名誉教授をはじめ副学長、部局長等の出席のもとに、本学総合体育館にて挙行された。

京都大学交響楽団演奏、合唱団による学歌斉唱に続き、「総長のことば」があり、午後3時30分に終了した。

今年度の新入生数は、次のとおりである。

平成20年度修士課程入学者数

区 分 研究科	修 士 課 程			
	入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他	
文 学 研 究 科	94 ^人	3 ^人	6 ^人	103 ^人
教育学研究科	34	1	1	36
法 学 研 究 科	3	2	7	12
経済学研究科	14	6	12	32
理 学 研 究 科	284	2	2	288
医 学 研 究 科	60	2	1	63
薬 学 研 究 科	82	1	4	87
工 学 研 究 科	666	8	23	697
農 学 研 究 科	301	2	10	313
人間・環境学研究科	139	6	19	164
エネルギー科学研究科	103	—	4	107
情報学研究科	164	1	9	174
生命科学研究所	84	1	1	86
地球環境学舎	40	5	3	48
合 計	2,068	40	102	2,210

平成20年度修士課程(専門職)入学者数

区 分 研究科	専 門 職 学 位 課 程			
	入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他	
法 学 研 究 科	208 ^人	— ^人	— ^人	208 ^人
医 学 研 究 科	39	—	—	39
公共政策教育部	43	—	3	46
経営管理教育部	57	1	17	75
合 計	347	1	20	368

平成20年度博士後期課程入学者数

区 分 研究科	博 士 後 期 課 程												合計
	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		転入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他	
文 学 研 究 科	52 ^人	1 ^人	3 ^人	7 ^人	1 ^人	2 ^人	— ^人	— ^人	— ^人	— ^人	— ^人	— ^人	66 ^人
教育学研究科	22	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	25
法 学 研 究 科	11	2	4	6	1	3	2	—	—	—	—	—	29
経済学研究科	17	3	—	2	2	3	—	—	—	—	—	—	27
理 学 研 究 科	125	1	1	17	—	—	—	—	—	—	—	—	144
医 学 研 究 科	16	1	—	6	2	1	—	—	—	—	—	—	26
薬 学 研 究 科	19	—	—	6	—	2	—	—	—	1	—	—	28
工 学 研 究 科	65	5	5	48	5	7	—	—	—	—	—	—	135
農 学 研 究 科	53	3	4	14	3	5	—	—	—	—	—	—	82
人間・環境学研究科	48	2	8	12	2	3	—	—	—	—	—	—	75
エネルギー科学研究科	8	—	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	12
情報学研究科	17	2	1	10	3	3	—	—	—	—	—	—	36
生命科学研究所	30	—	—	8	1	1	—	—	—	—	—	—	40
地球環境学舎	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
合 計	485	21	26	141	20	32	2	—	—	1	—	—	728

平成20年度博士課程(医学専攻)入学者数

区 分 研究科	博 士 課 程						合計
	入学	外国人留学生		進学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
医 学 研 究 科	118 ^人	10 ^人	4 ^人	8 ^人	1 ^人	－	141
合 計	118	10	4	8	1	－	141

平成20年度一貫制博士課程入学者数

区 分 研究科	一 貫 制 博 士 課 程						
	入学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
アジア・アフリカ 地域研究 研究科	24 ^人	－ ^人	1 ^人	3 ^人	3 ^人	－ ^人	31 ^人
合 計	24	－	1	3	3	－	31

平成20年度博士課程(3年)入学者数

区 分 研究科	博 士 課 程						合計
	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
地球環境学舎	6 ^人	－ ^人	－ ^人	5 ^人	3 ^人	1 ^人	15 ^人
合 計	6	－	－	5	3	1	15



平成20年度入学者選抜学力試験の結果

平成20年度入学者選抜学力試験(第2次学力検査)の前期日程試験は2月25日(月)・26日(火)及び27日(水)に、後期日程試験は3月12日(水)に実施した。

学部別の受験者数、合格者数及び入学者数等は次表のとおりである。

(平成20年4月1日現在)

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1段階 選抜合格者数	受験者数 (C)	倍 率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	追加合 格者数	入学者数
総合人間学部	120											
前期												
文系	65	226	3.5	226	221	3.4	5	2.2	67	1	—	122
理系	55	206	3.7	206	199	3.6	7	3.4	56			
文学部	220	651	3.0	651	645	2.9	6	0.9	224	—	—	224
教育学部	60											
前期												
文系	50	176	3.5	176	174	3.5	2	1.1	51	—	—	61
理系	10	31	3.1	31	31	3.1	0	0.0	10			
法学部	320	791	2.5	791	778	2.4	13	1.6	328	1	—	327
経済学部	230											
前期												
一般	180	585	3.3	585	575	3.2	10	1.7	191	—	—	241
論文	50	218	4.4	175	172	3.4	3	1.7	50			
理学部	311	865	2.8	845	833	2.7	12	1.4	313	1	—	312
医学部	243											
前期	223	624	2.8	603	590	2.6	13	2.2	237	4	—	258
後期	20	166	8.3	166	83	4.2	83	50.0	25			
薬学部	80	231	2.9	231	227	2.8	4	1.7	82	—	—	82
工学部	955	2,401	2.5	2,401	2,364	2.5	37	1.5	973	2	—	971
農学部	300	796	2.7	796	783	2.6	13	1.6	316	2	—	314
小計												
前期	2,819	7,801	2.8	7,717	7,592	2.7	125	1.6	2,898	—	—	—
後期	20	166	8.3	166	83	4.2	83	50.0	25			
計	2,839	7,967	2.8	7,883	7,675	2.7	208	2.6	2,923	11	0	2,912

〔外国学校出身者のための選考の実施結果(外数)〕

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍 率 (B/A)	第1次 選考合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	入学者数
法 学 部	10 ^{人(以内)}	32 ^人	3.2	20 ^人	15 ^人	1.5	5 ^人	25.0 [%]	8 ^人	— ^人	8 ^人
経 済 学 部	10	21	2.1	15	12	1.2	3	20.0	8	—	8

(注) 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

名誉教授称号授与式

4月4日(金)午前11時から時計台記念館国際交流ホールにて名誉教授称号授与式が、副学長，部局長等の出席のもと執り行われた。このたび名誉教授の称号を授与された方は，次の48名である。



(氏 名)	(推 薦 部 局)	(氏 名)	(推 薦 部 局)
増 田 俊 夫	(工 学 研 究 科)	岩 嶋 樹 也	(防 災 研 究 所)
前 田 忠 直	(工 学 研 究 科)	高 藤 晃 雄	(農 学 研 究 科)
中 森 喜 彦	(法 学 研 究 科)	塚 谷 恒 雄	(経 済 研 究 所)
藤 田 稔	(農 学 研 究 科)	齋 藤 恭 司	(数 理 解 析 研 究 所)
木 村 崇	(人 間・環境学研究所)	野 間 昭 典	(医 学 研 究 科)
丸 橋 晃	(原 子 炉 実 験 所)	吉 川 正 明	(農 学 研 究 科)
櫻 田 嘉 章	(法 学 研 究 科)	西 村 健一郎	(法 学 研 究 科)
四日谷 敬 子	(人 間・環境学研究所)	村 瀬 哲 司	(国 際 交 流 セ ン タ ー)
堀 井 文 敬	(化 学 研 究 所)	掛 谷 誠	(ア ジ ア・ア フ リ カ 地 域 研 究 研 究 科)
片 柳 榮 一	(文 学 研 究 科)	吉 田 昌 之	(農 学 研 究 科)
山 田 利 昭	(農 学 研 究 科)	河 合 隆 裕	(数 理 解 析 研 究 所)
二 宮 正 夫	(基 礎 物 理 学 研 究 所)	齋 藤 軍 治	(理 学 研 究 科)
東 谷 公	(工 学 研 究 科)	西 岡 孝 明	(農 学 研 究 科)
今 福 道 夫	(理 学 研 究 科)	清 水 勇	(生 態 学 研 究 セ ン タ ー)
堤 定 美	(再 生 医 科 学 研 究 所)	岡 穆 宏	(化 学 研 究 所)
渡 邊 史 夫	(工 学 研 究 科)	今 中 忠 行	(工 学 研 究 科)
松 本 勝	(工 学 研 究 科)	田 尾 雅 夫	(公 共 政 策 連 携 研 究 部)
徳 永 宗 雄	(文 学 研 究 科)	家 村 浩 和	(工 学 研 究 科)
丸 山 正 樹	(理 学 研 究 科)	小 川 侃	(地 球 環 境 学 堂)
丹 羽 隆 昭	(人 間・環境学研究所)	金 田 章 裕	(文 学 研 究 科)
鈴 木 祥 之	(防 災 研 究 所)	水 光 雅 則	(高 等 教 育 研 究 開 発 推 進 セ ン タ ー)
藤 原 勝 紀	(教 育 学 研 究 科)	足 立 幸 男	(人 間・環境学研究所)
田 村 剛 三 郎	(工 学 研 究 科)	武 田 博 清	(農 学 研 究 科)
下 谷 政 弘	(経 済 学 研 究 科)	小 崎 隆	(地 球 環 境 学 堂)